# 実績豊富な企業による「技術力」と地域性を熟知した「地域力」を最大限に発揮し、完成引渡しを1ヶ月前倒しします

### 具体的な業務実施方針

本事業は、広場整備をきっかけに「社会的価値の向上」や「地域創生」など、 八幡市の未来を切り開く「まちづくりプロジェクト」であると考えます。 私たちは、代表企業と地元施工企業および設計企業の力を統合する共同体 により、関係者の皆様と"共に考え、共につくる"を基本姿勢に対話を重ね、 この場所ならではの「新しい価値」の創出を目指します。

### 関係者との緊密な連携を図る取り組み体制

① 信頼関係の構築:事業を円滑に推進するためには、八幡市・設計者・施工者の信頼関係が重要です。① パートナーとしての対話力、②エンジニアとしての技術力、③チームとしての提案力をもとに、コミュニケーションは知識に関い、カトな、マナ東党に関い組みませた。



ンを綿密に図り、一丸となって本事業に取り組みます。 図Ⅱ -1. 信頼関係の構築

② 情報の一元管理:本事業の推進を円滑に行うために統括責任者が各種情報を一元的に集約管理したうえで、統括する設計業務管理技術者、工事監理業務管理技術者、現場代理人、監理技術者に展開し、相互調整を行います。

#### 工事費の増減管理を行うための具体的な方策

### 代表企業を中心としたコスト管理体制の構築

- ① 設計段階から工事費を見据えたコストコントロール:設計調整や変更に対するコスト情報を設計段階から精査することで工事におけるコスト超過をなくします。
- ② 工事業者の早期選定:コストの比率が大きい主要工種(解体、躯体、設備等) は、価格競争を行ったうえで専門工事業者を早期に選定して体制を整えます。
- **❸ 価格変動への対応**:代表企業の購買担当部署が中心となり、昨今の建設材料等の価格変動情報をいち早く察知し、設計企業とともに対策を講じます。

### 全体工程表 (業務別工期が明確なもの)

DBの特性を踏まえた、具体的なマイルストーンの設定や進捗管理方法、工程管理方法

### 設計・施工の情報共有による事業推進の円滑化

- **① マイルストーンの見える化**:設計から工事を通じて節目となる期日を明確にし管理します。設計における設計完了や申請手続き等の重要管理ポイントや解体から新築にかけての工程管理を確実に行います。
- ② トリプルチェックの採用: 3 社 JV の利点を活かし、施工企業 2 社がそれぞれ設計段階から施工を見据えた設計内容の確認を設計企業とともに行うことで、進捗管理やコスト管理・品質確保を図ります。
- **③ 施工の円滑化**: ICT を利用したわかりやすいツールにより図面・工程・安全などに関わる情報を共有しながら円滑な合意形成を図ります。これにより、工事進捗の検証や現地状況を図面と照合しながら工事を着実に進めます。

#### 工程遵守及び工程短縮に関する具体的な方策

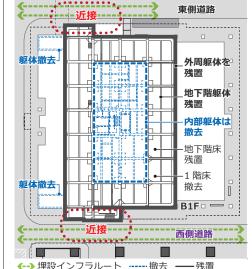
### 設計段階からの早期調査・早期発注・遅延防止による工期短縮

- 早期調査: 既存躯体や地下状況など状況を十分に把握できていないリスクに対して早期に事前調査を行うことにより工程遅延を防止します。
- ② 早期発注: クリティカル工程 (パス) やもの決め工程に影響を及ぼす工種 について、専門業者への早期発注や設計段階からの施工図作成など、資材及 び労務を早期に確保し、工事の合理化を図ります。
- ③ プロセス検査による遅延防止:施工中は代表企業のプロセス検査を適切な時期に実施し、後戻りによる工程遅延を防止します。自然災害や感染症の蔓延などの外的要因による突発的な労務・資材不足に対しては、代表企業の専門部署が主体となり、作業員を確保、資機材を調達し、工程遅延を防止します。また、代表企業の有するBCP(事業継続計画)支援システムを活用して工事中断を最小限に留め、事業継続に努めます。

### 地下残置物及び新本庁舎連絡通路整備等を考慮した合理的な工法

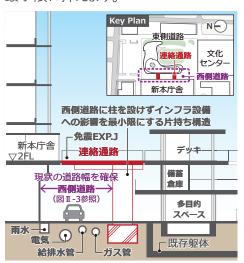
### 計画地の状況を的確に把握し、インフラへの影響を抑える工法の採用

① 既存地下躯体を利用し山留を用いない:計画地は地下水位が高く、旧本庁舎の地下躯体や底版の撤去は、地下水の噴出や地盤の膨れ上がりなどによる周辺への影響が想定されるため、山留工事が不可欠です。しかし、旧本庁舎の地下躯体は敷地内の東・西側道路に近接しており、地下躯体を撤去するための山留施工は、通路に埋設されているインフラに影響を与える恐れがあります。地下躯体を残置・有効利用した以下のステップにより、インフラへの影響を最小限に抑えます。

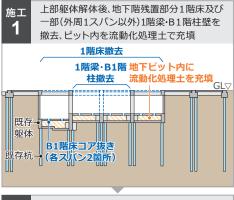


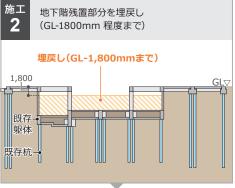
図Ⅱ -3. 残置活用する既存庁舎地下躯体

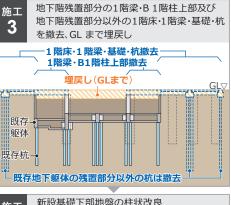
2 西側道路に影響を与えない連絡通路の整備:連絡通路を設置する西側道路は、新本庁舎や文化センターの基幹的インフラが多数埋設されています。さらに消防隊の活動動線として設定されています。このことから、連絡通路を支持する柱は西側道路上に設けず、新設側からのみ支持する構造とすることで、西側道路機能への影響を最小限に抑えます。

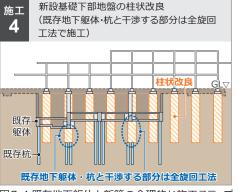


図Ⅱ -5. 連絡通路の断面図

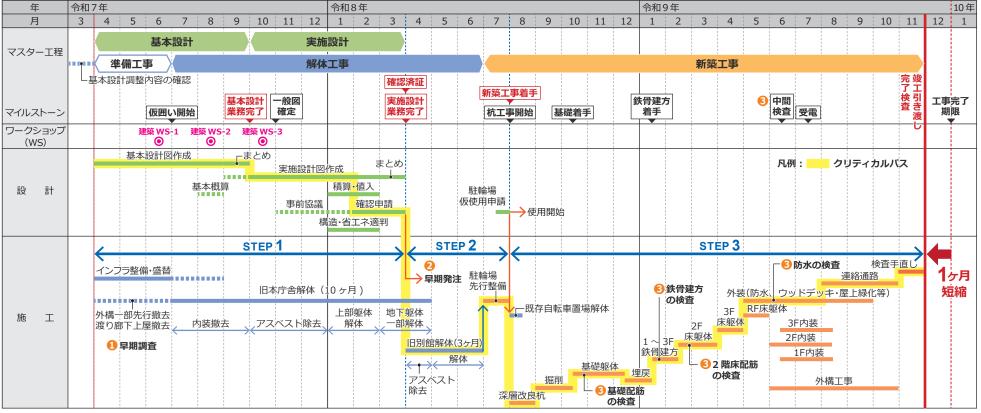








図Ⅱ-4.既存地下躯体と新築の合理的な施工ステップ



2) 設計業務: 設計提案1【Ⅲ】 \_ \ コトナパーク / \_

# 子どもから大人まで全ての市民の憩いと交流を育むとともに、生活を守る防災拠点となる「CO-TONA PARK」を整備します

本計画に求められていることは、①市民の交流拠点の 整備と②防災拠点としての災害対策機能の強化です。 この整備の実現は、事業当初からのコンセプトであ る「やわたテラス」の構築に向けた課題であり、八幡 市のまちづくりの姿勢を示すうえで重要なプロジェクト であると考えます。

①**市民の交流拠点の整備**:新本庁舎の市民プラザや 文化センターとの相乗効果を引き出し、日常的な賑わ いと交流を創出し「やわたテラス」の価値を高めます。 **②防災拠点としての災害対策機能の強化**:災害対策 機能の備えを確実に施し、日常的に使用してもらうこと で防災意識の向上と迅速な機能転換を図ります。

私たちは、日常的に市民が利用できる環境づくりが重要で あるという認識のもと、この防災・市民広場を「CO-TONA **PARK** (コトナパーク)」(子 - 大人) と名付けました。子供 から大人まで人々が憩い、交流と活動を育み、災害時に は災害対策拠点へと転換する市民のための公園です。



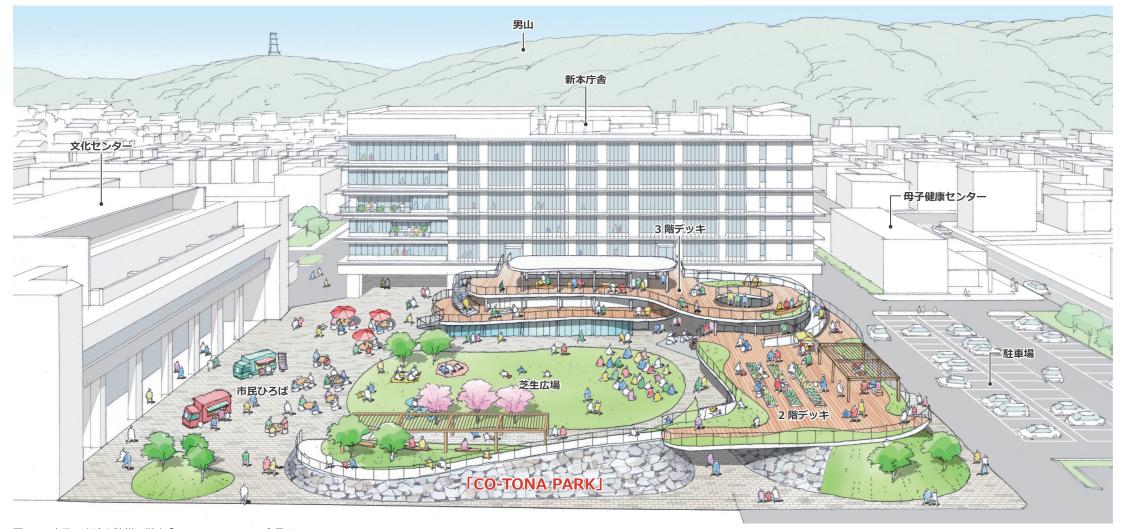
既存建物や「やわたテラス」のあり方を意識した提案

### やわたテラスの魅力を高める「CO-TONA PARK」

「CO-TONA PARK」は新本庁舎 1 階のエントランスやピロ ティ、3・4階の市民プラザ、文化センター等の機能や空 間を念頭に、それらとは異なる性格を持つ屋内外の活動・ 交流空間とします。これにより、自分に合った居場所を選 べることや目的に合った施設を利用することが可能となり、 「やわたテラス」そのものの魅力と利用価値をさらに高め



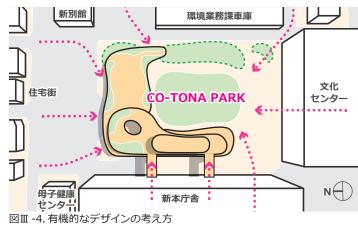
図Ⅲ -3. やわたテラスの概念図



図Ⅲ -2. 市民の交流と防災の拠点「CO-TONA PARK」全景イメージ

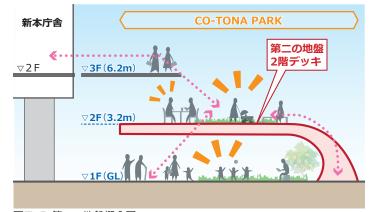
### 新本庁舎、要求する建物(または構造物)及び広場の連続的なデザイン提案 やわたテラスの新しい顔づくり

計画地は新本庁舎や文化センターなど高さのある堅ろうな 既存建物に囲まれた圧迫感と堅さのある環境と言えます。建 物の形状は空間や環境を性格付け、使い方に影響を与えま す。広場から連続する緑豊かな有機的なデザインは、全体 の堅いイメージを和らげ、様々な空間を緩やかにつなぎます。 居心地よく親しみをもって過ごすことのできる環境づくりが、 シビック交流拠点としての求心性を生み出します。



### 新本庁舎と広場をつなぐ第二の地盤:2階デッキ

連絡通路で接続する新本庁舎の2階までは6.2mの高さ があり、直接上る階段等の動線としては利用しにくいこと が想定されます。そこで、「CO-TONA PARK」では新本 庁舎と広場(GL レベル)の間に**中間階として第二の地盤** を設け、そこに交流活動環境を整えます。これにより、新 本庁舎2階への利便性と連続性の確保、ヒューマンスケー ルの環境づくりを行います。



図Ⅲ-5. 第二の地盤概念図

#### 様々な利用者の想定されるアクティビティ

### 市民・利用者の居場所づくり: サードプレイス

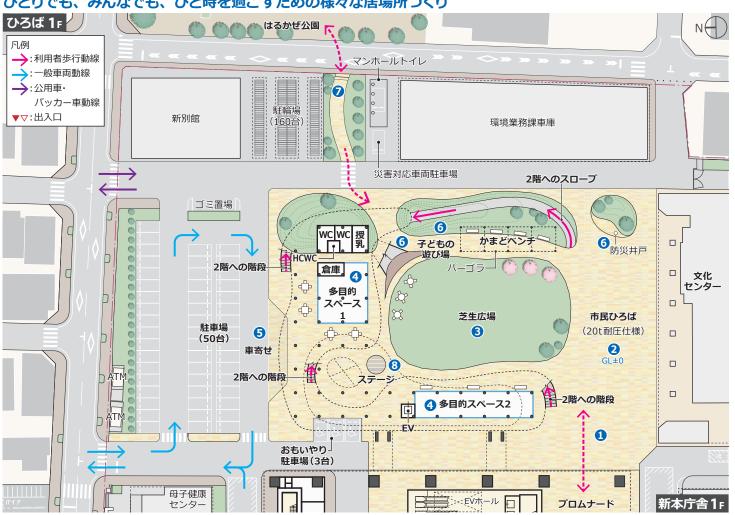
「CO-TONA PARK」は、2つの多目的スペースや庇の出 幅や高さの違う軒下空間、屋外のデッキやテラス、芝生 や遊び場などの様々な空間で構成します。中央の芝生広 場を囲むように立体的に構成されたこれら屋内外の様々 なスペースは、見る見られるの関係を生み出して興味を 誘発することで、人と人をつなぎ、交流を育むとともに、 市民・職員のサードプレイスとしての場を提供します。



図Ⅲ -6. 様々な居場所イメージ

# ライフサイクルコストに配慮し、やわたテラスの新しい顔として長く愛され続けられる施設づくりを行います

ひとりでも、みんなでも、ひと時を過ごすための様々な居場所づくり

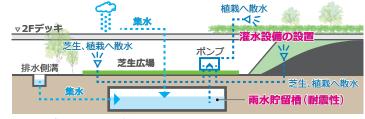


図Ⅲ -7. 各階平面イメージ

水場、植栽または潅水設備等のメンテナンスについて配慮された提案 及び具体的なメンテナンス計画

### グリーンインフラの整備

● 潅水設備による植栽の維持管理:本提案では地上レベ ルと2階デッキレベルに植栽を施す計画です。雨水貯留 を利用した潅水設備システムを設けることで、日常的な維 持管理を容易にします。なお、潅水設備メーカーとの年に 1回程度の点検契約を推奨します。



図Ⅲ -8. 潅水システムの採用

**② 芝生の維持管理**:約 800 mの芝生広場は天然芝(コ ウライシバ)を想定します。浸透性基盤を採用するほか、 スプリンクラーによる散水設備を設けます。2月~3月の休 眠期から育成期の時期に、エアレーション、目十入れ、施肥、 除草を行うことによって、良好な芝生広場を形成します。

施設の長寿命化及び更新の容易性について配慮された提案

### 長く使われ続けるための仕上げレス施設

- 耐久性を高めるためにコンクリートと鉄骨のスケルトン 建物を基本とし、耐候性の高い仕上げとします。
- 2 天井などの仕上げは極力なくし、電気や空調機器、配 線・配管など通常は隠ぺいされる設備を露出とすることで 将来的な更新や変更を容易にします。

バリアフリー及びユニバーサルデザインについて配慮された提案

### だれもが利用しやすいバリアフリーを取入れたUD計画

- 安心安全な歩行者環境:歩行者エリアと車両動線を明 確に分けて歩者分離を徹底します。
- **② 車寄せ・おもいやり駐車場**:屋根付きとし、段差をなく して快適にアプローチできる計画とします。
- **3 サイン**: 多国語表示のほか子どもから年配の方までわか りやすいように文字の大きさや色彩等に配慮します。
- **4 エレベーター(EV)**: 15 人乗り・ストレッチャーに対応し た仕様とし、日常から災害時に至るまで利便性を高めます。
- **⑤ 多目的トイレ・授乳室**:小さいお子様連れの家族にも やさしい施設整備に努めます。

「CO-TONA PARK」は基本的に歩 行者空間として歩車分離を徹底。新 本庁舎のプロムナードから連続させ て安心な歩行者環境を整備。

#### 2市民ひろば

ひろば 2ょ

現状の大きさをなるべく残し、神 1階北側と西側に設けた広さの異 輿の足慣らしや市民文化祭などの なる2つの多目的スペース。用途 既成イベントにも対応。床はキッチ に応じて必要な広さが確保できる ンカーや災害対策車などに対応し た 20t 耐圧仕様として新たに整備。

一パーゴラ

. 10

2階デッキ

3Fへの

スローフ

#### ❸芝生広場

約800㎡の起伏のない芝生広場。 子どもの遊び場やステージの観覧 など屋外のイベント時に様々な使 い方が可能。

### △多目的スペース

3階への階段

拡張性の高い仕組みを採用。

北側駐車場に面して車寄せを配置。 スマートモビリティや自動運転化 など、将来的なモビリティサービ スの変化も視野に入れて広く確保。 める。

### 6子どもの遊び場

ひろば 3 ғ

広場東側にスロープに合わせた緑 高さのある大屋根を利用しステー の丘や滑り台、防災井戸等を設け ジを構成。芝生広場や2F デッキ て、子どもが遊べる場所や休憩で からも観覧可能。 きるスペースを計画。

## 8ステージ

遊具がある「はるかぜ公園」との

連携を図るため、高低差のある計

画地側に階段を設置し利便性を高

7はるかぜ公園との連携

#### ④備蓄倉庫

イベント時や災害時などに使用す る備品を格納。

### 🕕 2 階デッキ

屋外活動の場。取り外し可能な床 デッキは、植栽ポットによる菜園 や、災害時にはテントを張って仮 設対応も可能。

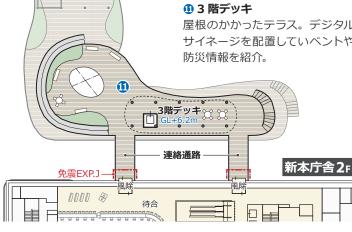
屋根のかかったテラス。デジタル サイネージを配置していベントや 防災情報を紹介。

-ソーラー灯

-屋上の高断熱化

高気密サッシ

Low-E複層ガラス



ライフサイクルコスト及びエネルギーコスト縮減についての具体的な方策

④ 備蓄倉庫

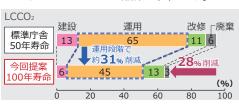
設備スペース

一滑り台

6

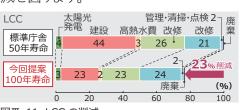
### 自然エネルギー活用による LCCO2 28%削減とライフサイクルコスト(LCC) 23%縮減の具体的な方策

① LCCO2 削減:自然通風・採光を取り 入れたパッシブデザインを基本に、実効性 が高い環境技術、省エネ設備機器を採用 しエネルギーコストの縮減を図ります。

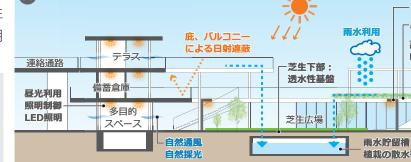


図III -9. LCCO2 の削減

② LCC 縮減: 建設・運用・修繕段階 における様々な合理化を行い LCC 縮 減を図ります。



図Ⅲ-11. LCC の削減



図Ⅲ -10. 環境断面

躯体の合理化 清掃 修繕計画 鉄骨柱とフラットスラブによるシ 耐久性の高い材料の選定や潅水 維持管理計画のほか、新本庁舎 ンプルな構造形式とし、合理化を 設備の導入などで日常的な管理 の修繕計画と合わせて中長期修 図る 費用を低減 繕計画を立案 仮設工事の合理化 空調・照明 スケルトン・インフィル 旧本庁舎地下躯体を活用して山 高効率機器や LED 照明、人感セ 構造体と間仕切りや設備を明確 留等の仮設費用を削減 ンサーなどを採用し光熱費を削減 に分離して更新性の容易化 設備更新の容易性 仕上げレス RFMS 天井の仕上げをなくしコスト削減 設備機器の運転状況を一元管理、設備機器を露出 最適な運転計画を立案

図Ⅲ-12. ライフサイクルコスト縮減の具体的な方策

# 自助・共助・公助による地域防災の意識を高め、災害時に市民の安心・安全の拠り所となる施設整備を実現します

新本庁舎と一体的な防災拠点となる広場

### 防災・災害対策活動の明快な役割分担

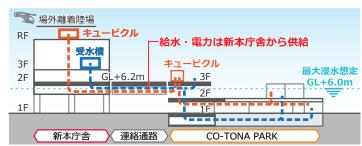
災害時には司令塔となる新本庁舎を軸に、「CO-TONA PARK | や文化センター、東側に隣接する「はるかぜ公園 | などの各施設が相互に連携して対応することが重要です。 災害時の活動内容をゾーニングして役割を明確にしておく ことで、災害規模や状況に応じて迅速に連携し、的確に 機能する防災拠点となります。



図IV -1. 災害時の活動ゾーニング

### 新本庁舎からの供給設備を有効活用

新本庁舎計画時から想定されていた供給設備を有効に活 用します。新本庁舎とつながる2つの連絡通路を供給ルー トとして日常と災害時における電源や給水をまかなう計画 とします。供給元は新本庁舎の2階以上に設けてあること から災害時にも利用可能です。

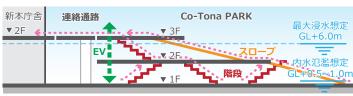


図IV -2. 新本庁舎との連携

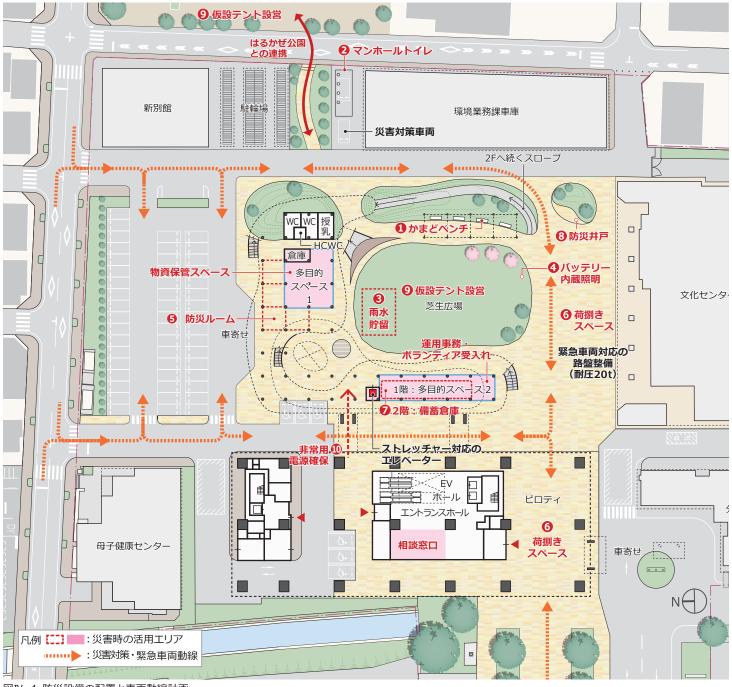
#### 新本庁舎への避難動線計画

### 日常と災害時の利便性を高める複数動線の確保

台風や内水氾濫、河川決壊などの水害発生時は、新本庁 舎2階へ避難することを想定しています。2階デッキへの 3つの階段のほか、新本庁舎2階まで連続するスロープ、 エレベータなど、複数の動線を確保します。日常的に利用 する複数の動線確保が、避難時に効果を発揮します。



図IV -3. 複数の動線確保



図IV -4. 防災設備の配置と車両動線計画

### 災害後のフェーズに合わせた災害対策活動

災害状況やフェーズによって活動内容は変わります。各 フェーズに即した役割を確実に行うことで、継続的な災害 対策活動や支援を行える施設とします。



図Ⅳ -6. 災害時の活動イメージ

平常時及び災害時の広場の活用方法

### 災害対策活動機能を高める 10 の防災設備

災害発生時に確実に機能するために、実効性が高いと 考えられる以下の10の防災設備を整備します。また、日 常的に利用することで災害対策活動に迅速に転換する 「フェーズフリー」の考えに沿った計画とします。



図IV -7. 10 の防災設備

日常的に防災を意識できる仕組み

### 五感で高める防災意識づくり

市民の防災意識向上には、防災情報を正確に共有するこ と、災害時に迅速に機能転換が行えること、そして何より 防災拠点として認知し安心感を持ってもらうことと考えま す。そのため、訪れた人への視覚的な情報提供や日々の 利用、活動体験などにより、五感で高める防災意識づくり を積極的に行う計画とします。

	デジタルサイネージ	天候や防災情報のほか、市域内での様々なイベントや活動などを紹介します。(1階多目的スペース、3階デッキに設置)
	防災マップ	やわたテラスの防災マップを作成し掲示します。
	サインへの反映	10 の防災設備や動線上に防災機能を意識したわかりやすいピクトを設置し、認知力を高めます。
	防災キャンプの 実施	体験型ワークショップを開催し、かまどベンチやテント張りなどの体験 (DB 範囲外)
	消防活動のデモ実践	八幡市消防本部と連携して、ヘリポートも利用した災害訓練を実施。(DB 範囲外)
圆型 0 时似在前上高进了战人以开起几		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

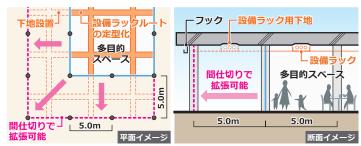
図IV -8. 防災意識を高める様々な仕掛け

# 日常的な利用からイベントまで、市民活動を支え、市民と共に育む「CO-TONA PARK」を実現します

様々な利用者が長時間滞在できる広場

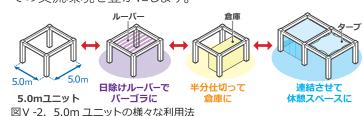
### 拡張性が高く様々な可能性をもつ広場空間

● 1階多目的スペース: 1 階の北側と西側に広さや形状の違う多目的スペースを配置します。勉強空間(読書、自習)、創造空間(ラボ、チャレンジショップ)、商業空間(カフェ、小売店)、運営(事務所、倉庫)など様々な利用が可能です。 5.0 mグリッドの柱スパンを利用した拡張性の仕組みや設備ルートの合理化などにより、可変性が高くその時々に最適な空間となります。

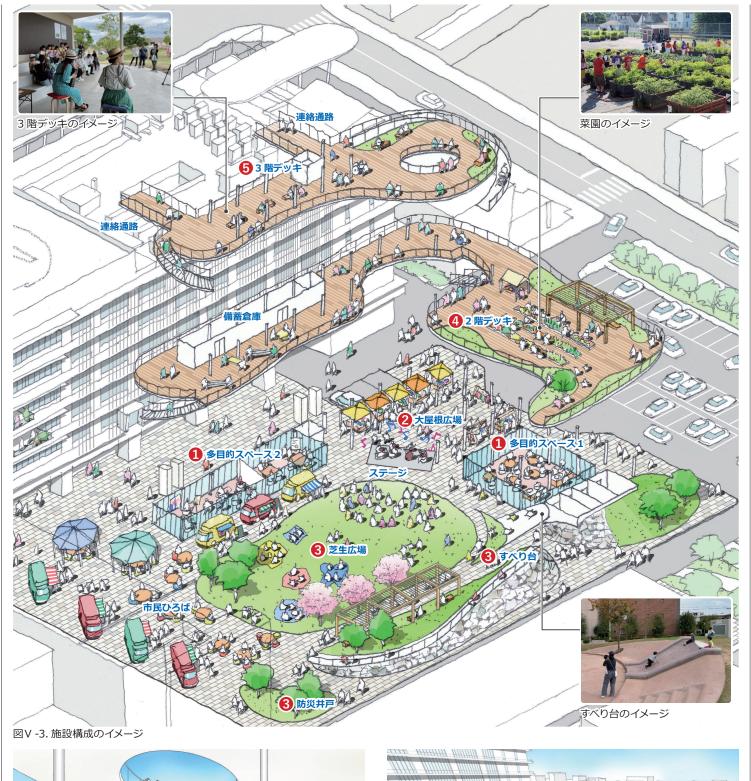


図V-1. 可変性の高い多目的スペースの仕組み

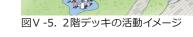
- 2 半屋外の大屋根広場:北側駐車場からの玄関でもある約 250 ㎡の大屋根空間は、まとまった広さを有する半屋外空間です。日常はテーブルや椅子を置いて会話や飲食を楽しむ場として、非日常では多目的スペースと連携したイベントや屋根付きのステージ空間として利用可能です。
- 3 緑や遊具のある屋外広場:中央には適度な木陰を有する約800㎡の芝生広場を設けます。ステージの観覧やイベント、ランチやお花見など、市民の交流とくつろぎの場です。周囲には滑り台やスロープを形成する芝の丘、防災井戸を利用した水遊び場など、子どもや家族も楽しいひと時を過ごせる空間です。また、かまどベンチやパーゴラを配置して快適に過ごせる屋外環境を整えます。
- **4 2 階デッキ**(5.0 mユニット): 2 階デッキは芝生広場とは違う屋外活動スペースです。5.0 mのフレームで構成されたユニットは、パーゴラのほか休憩スペースや倉庫など、活動に応じて様々な機能に変化できることで憩いの場としての交流環境を豊かにします。



⑤ 庁舎とつながる3階デッキ:3階デッキは芝生広場や 吹抜けを通して大屋根の下で起こるアクティビティ観覧など 「CO-TONA PARK」全体が見渡せる観覧スペースとなり ます。また、庁舎の待合空間の拡張としての利用のほか、 デジタルサイネージにより「やわたテラス」の活動を情報 発信するなど新本庁舎との連携を深めます。







広場での新たな出会いを創出する仕組み

### 市民協働と広場マネジメントによる賑わい醸成

① 建築ワークショップ:「CO-TONA PARK」を利用する市民はもちろん、イベントを開催したり、マーケットを開くなど主催側にとっても使い勝手の良い広場を整備しておくことが望まれます。そこで、利用しやすい広場づくりへ向けて、設計段階に市民を対象とした3回のワークショップを開催し、市民とともにつくり育てる「CO-TONA PARK」を創出します。



図V -6. ワークショップの開催例

### 広場運営に必要なプロセスのご提案(別途業務)

- 運用ワークショップ: 市民がやりたい活動を広場で実現できる最初のお披露目会を「こけら落としフェス」と名付け、そのプロセスをワークショップ方式で支援することが可能です。フェスで活動された方々が、後に広場の日常的賑わいを支えるメンバーになっていきます。
- ② 広場に日常的に人が集う運用の仕組み:コーディネーターを配置し、供用開始後に広場を中心とした活発な活動がおこなわれる状況づくりをめざすことが重要です。本チームのノウハウを活かし、企画段階・準備段階・供用開始と、プロセスに応じて人が集う運用の仕組みを提供することが可能です。
- ③「日常と非日常」両方の賑わい創出:「CO-TONA PARK」が支えるサブテーマとして、「食と農、子育て、おもてなし活動」の3つを提案し、広場の日常と非日常を演出します。日常は市民団体を中心に、少し大きめのイベントなどは企業や関係団体を誘致し実現します。



# 現地建て替え工事における市民・職員の安全性を確実に守り、地域貢献を視野に入れた工事運営を行います

周辺住民、来庁者(市役所・文化センター等)、職員に配慮した安全対策、動線計画、騒音対策及び利便性の確保

### 安全対策

**① 仮囲い**:ソフトな素材感と表面に突起や凹凸のないフ ラットな樹脂製仮囲いの使用やコーナー部の隅切り、クリ アパネルを使用した視認性の確保など、通行される方々 の安全を確保します。

**② 夜間への配慮**:仮囲い上部に自動点灯照明を設置し、 雨天や曇天日、また夜間等暗くなる環境でも安心して通行 できるよう配慮します。

3 WEB カメラの設置:工事車両出入口付近を常時監視 できるクラウド録画型 WEB カメラを設置し、工事車両の 通行状況を確認するほか、夜間の工事所閉鎖時の警備に 使用することで、地域の防犯にも寄与します。

④ 落下防止対策:解体工事中の西・東面及び新築工事 中の西面外部足場上部に落下防止棚(アサガオ)を設置 し、万が一の落下物による事故を防止します。



図VI -1. クラウド録画カメラの例

工事範囲、仮設計画及び工事ステップ図





図VI -3. 樹脂製仮囲い

### 動線計画

● 適切な工事車両出入口:工事敷地東側及び西側道路 を通行する一般車両や来庁者等の動線に配慮し、工事車 両は主として敷地北側中央部出入口からの入退場とします。

② 安全な誘導(デジタルサイネージ): 工事内容による仮囲いの盛替えや動線 の変更は、 看板や仮囲いへのデジタル サイネージで表示し、安全に誘導します。 図VI-4.デジタルサイネージ



### 騒音対策

利便性の確保

● 騒音抑制の工法:低騒音型の建設 機械を使用するほか、解体工事中の外 部足場への防音パネル設置や圧砕に よる解体工法を採用し騒音を抑えます。

**② 騒音・振動計の設置**: 仮囲いには、 工事の騒音・振動状況を第三者が確 認できるよう騒音・振動計を設置し、 法基準値を超えないよう管理します。



図VI -6. 騒音・振動計

① 環境業務課車庫前道路の通行を妨げないように仮囲い を設置します。

2 北面の既存自転車置場の撤去をできるだけ後回しとし、 新本庁舎への利便性を確保します。

施工のポイント

## 地域経済の活性化への寄与

① 現場運用にかかる取り組み: 工事関係者の昼食及び弁 当の利用、現場事務所・駐車場用の土地・建物の不動 産賃貸、作業員の宿舎、タクシーの利用、印刷物の依頼 等について市内業者を積極的に活用します。

単なる受注機会の拡大に留まらず、市内事業者を活用するための具体的な方策・金額等

**② 市内業者の優先交渉・連携の推進**:共同企業体の構 成企業には八幡市内の企業を含んでいます。また、建築 関係・建築資材関係の発注に際し、品質や施工技術を鑑 みて市内業者に優先的に見積もり徴集を行い、全工期中 で約5億円の発注を検討します。市内業者と連携してプロ ジェクトを進めるとともに、市内業者の施工技術向上を支 援し、中長期的な地域経済の活性化に寄与します。

**③ 工事関係者への情報発信**:現場で月1回開催する安全 大会や安全衛生環境協議会など、大勢の工事関係者に向 けて八幡市物産品やふるさと応援寄附金のパンフレットを配 布し、活用を推進します。

**4** 地域への情報発信:事業の紹介 や児童画(支給)等の展示、地域イ ベント(背割堤さくらまつり、やわた フェスタなど)への案内ポスター等を 仮囲いに掲示し、市民の皆様や工事 関係者に周知します。

環境業務課車庫



図VII -1. 仮囲いへの掲示

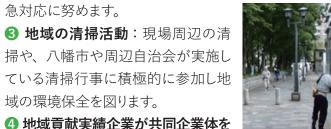
### 地域貢献に向けた様々な取り組み

● 防災品の備蓄:災害の発生に備え、工事敷地内に防 災倉庫を設置し、防災用品(pp袋、シート、工具類)を 備蓄します。設置場所や備蓄内容が表示される OR コード を仮囲いに貼り付け、工事関係者及び近隣の皆様に情報 を提供します。

**② 緊急時の迅速な対応と連携**:自然 災害時などで支援要請があった場合 は、現場重機の貸与や仮設資材を提 供し、一体となって被害の軽減や応 gvI -2.緊急時対応 急対応に努めます。

域の環境保全を図ります。





構成: 従来より地域への防災備蓄品 図Ⅶ -3. 地域の清掃活動

贈呈や社会福祉事業増進に取り組ん でおり、その貢献に対し感謝状も授与 されている市内企業が共同企業体の 一員になっています。本事業において も地域貢献に積極的に取り組みます。

図Ⅶ -4. 感謝状

# STEP 2 2026 年 4 月 ▶ 2026 年 7 月 [旧別館解体·新築準備工事]

● 旧別館解体

# STEP 1 2025 年 4 月 ▶ 2026 年 3 月 「準備工事・旧本庁舎解体 |

### 施工のポイント

●工事車両は敷地北側中央部出入口からのみの入退場とし、工事敷地東側及び西側道路を 通行する一般車両や来庁者等との動線の交錯をなくします。

●環境業務課車庫前道路の通行を妨げないよう、旧本庁舎の解体を先行して施工します。

● 北側の既存自転車置場は、新設駐輪場の整備が完了するまで使用できるよう配慮します。



### 工事手順 ❶旧別館解体

2新設駐輪場整備 ❸既存駐輪場撤去

**G**:ガードマン



### ●旧別館解体前に敷地内東側道路の迂回路を旧本庁舎敷地側に設置し、ごみ収集車両や来 庁者等の動線を確保します。

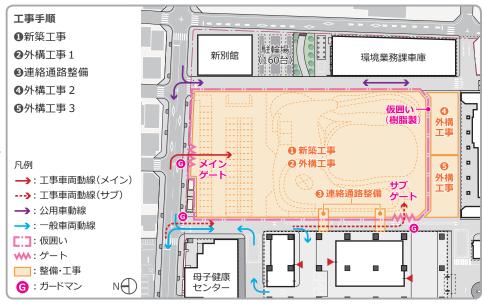
● 新駐輪場の使用を早期に開始できるよう、旧別館解体に引き続いて、新駐輪場の整備を行 います。

新別館

# STEP 3 2026 年 8 月 ▶ 2027 年 11 月 「新築工事·外構工事」

### 施工のポイント

- ●新本庁舎との連絡通路は土日作業とし、平日は下部を一般車両や来庁者等が通行できるよ う配慮します。
- 文化センターの前面(北側)部分の外構工事は、工事範囲を分割・区画して切換え施工す ることで、文化センターへの影響を最小限に留めます。



図VI -7. 仮設計画ステップ図